



検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、別掲の検査項目につきまして、検査方法および基準値等を変更させていただくことに致しましたので、取り急ぎご案内申し上げます。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

変更内容

- 別掲の一覧表をご参照下さい。

変更期日

- 平成 30 年 9 月 29 日(土) 受付日分より

検査内容変更項目一覧

コード	検査項目名	変更箇所	新	旧	備考	
676	亜鉛(血清)	基準値	80~130 µg/dL	64~111 µg/dL	日本臨床栄養学会 『亜鉛欠乏症の診療 指針2018』亜鉛欠乏 症診断基準に準拠 20頁	
1553 3533	マンデル酸(ST) マンデル酸(EB)	検査方法	LC-MS	HPLC	23頁	
1560	農業スクリーニング(血液)	項目コード	3923	1560	LC-MS/MS法の採用 および報告様式・ 報告成分の変更	
		検査方法	LC-MS/MS	GC-MS		
		検体量	ヘパリン加血液 4mL	ヘパリン加血液 5mL		
		検査対象農薬	別掲参照(22成分全てを定量値報告)	別掲参照(22成分中6成分を定性報告)		
		報告単位	µg/mL	ng/mL		
		報告様式	通常報告	別紙報告書		
1560	農業スクリーニング(尿)	項目コード	3924	1560	33頁	
		検査方法	LC-MS/MS	GC-MS		
		検体量	尿 4mL	尿 5mL		
		検査対象農薬	別掲参照(22成分全てを定量値報告)	別掲参照(22成分中6成分を定性報告)		
		報告単位	µg/mL	ng/mL		
		報告様式	通常報告	別紙報告書		
1526	遊離カテコールアミン3分画	報告成分	遊離アドレナリン1日量(µg/day) 遊離ノルアドレナリン1日量(µg/day) 遊離ドーパミン1日量(µg/day) 遊離アドレナリン濃度(µg/L) 遊離ノルアドレナリン濃度(µg/L) 遊離ドーパミン濃度(µg/L)	遊離アドレナリン1日量(µg/day) 遊離ノルアドレナリン1日量(µg/day) 遊離ドーパミン1日量(µg/day)	報告成分の追加 40頁	
737	α1マイクログロブリン(尿)	保存条件	冷蔵	凍結	67頁	
	IgEシングルアレルゲン(特異的) (シングルアレルゲン) 該当項目は別掲参照	基準値	0.35 UA/mL 未満	0.34 UA/mL 以下	基準値及び判定基準 表記の適正化 75、76頁 (一部未掲載)	
3438 3439 3440 3453 3579 3587	IgE-CAP16 (特異的アレ ルゲン16種) アトピー成人 食物アレルギー 花粉症・鼻炎 アレルギー性喘息 アトピー学童 アトピー乳幼児					
949	特異的IgE ヒノキ	検査方法	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]		同一メーカーの改良 試薬への変更 75頁
3440 3453	CAP16花粉症・鼻炎 CAP16アレルギー性喘息	検査方法	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]		アレルゲン16種のうち 、ヒノキのみ改良試薬 への変更 76頁 (一部未掲載)

亜鉛(血清)

亜鉛欠乏症に関して、日本臨床栄養学会から『亜鉛欠乏症の診療指針2018』にて、亜鉛欠乏症の診療指針が示されました。その中で血清亜鉛の基準値が80～130 $\mu\text{g}/\text{dL}$ と示されました。

また、同ガイドラインの中で、亜鉛欠乏症の診断指針も示されていますので、ご紹介致します。

要旨 亜鉛欠乏の診断指針

亜鉛欠乏症は、亜鉛欠乏の臨床症状と血清亜鉛値によって診断される。表に亜鉛欠乏症の診断基準を示す。亜鉛欠乏症の症状があり、血清亜鉛値が亜鉛欠乏または潜在性亜鉛欠乏であれば、亜鉛を投与して、症状の改善を確認することが推奨される。

1. 下記の症状 / 検査所見のうち1項目以上を満たす

- 1) 臨床症状・所見 皮膚炎、口内炎、脱毛症、褥瘡(難治性)、食欲低下、発育障害(小児で体重増加不良、低身長)、性腺機能不全、易感染性、味覚障害、貧血、不妊症
- 2) 検査所見 血清アルカリホスファターゼ(ALP) 低値

注：肝疾患、骨粗しょう症、慢性腎不全、糖尿病、うっ血性心不全などでは亜鉛欠乏であっても低値を示さないことがある。

2. 上記症状の原因となる他の疾患が否定される

3. 血清亜鉛値 3-1:60 $\mu\text{g}/\text{dL}$ 未満：亜鉛欠乏症

3-2:60～80 $\mu\text{g}/\text{dL}$ 未満：潜在性亜鉛欠乏

血清亜鉛は、早朝空腹時に測定することが望ましい

4. 亜鉛を補充することにより症状が改善する

Probable

亜鉛補充前に1、2、3を満たすもの。亜鉛補充の適応になる。

Definite (確定診断)

上記項目の1、2、3-1、4をすべて満たす場合を亜鉛欠乏症と診断する。

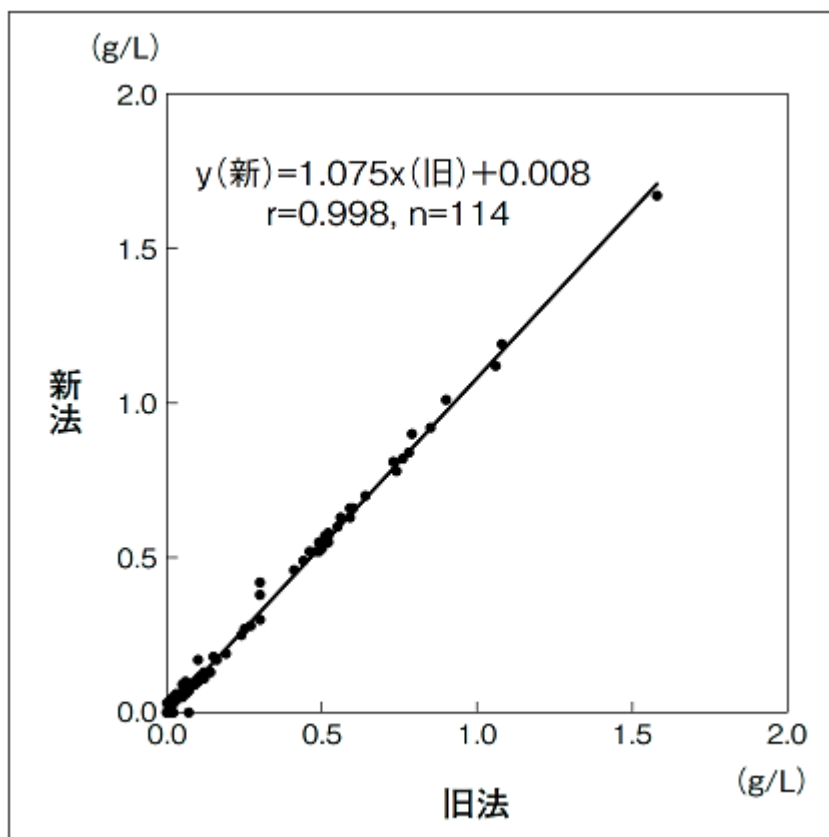
上記項目の1、2、3-2、4をすべて満たす場合を潜在性亜鉛欠乏症と診断する。

日本臨床栄養学会ホームページ「亜鉛欠乏症の診療指針2018」(P.3) (<http://www.jscn.gr.jp/pdf/aen20180402.pdf>) より抜粋

マンデル酸

マンデル酸の検査法を HPLC 法から LC-MS法へ変更致します。新旧二法の相関は良好で、その他検査要項に変更はございません。

新旧二法の相関



(LSI メディエンス検討データ)

農薬スクリーニング

農薬スクリーニングの検査方法をGC-MSからLC-MS/MSへ変更致します。本変更に伴い報告する対象成分のうち、定性報告の6成分を定量報告とし、対象報告22全ての成分を定量値にてご報告致します。なお、別紙報告書の運用を廃止し、通常報告書への変更も併せて行います。

農薬分析対象薬

対象成分 (22成分)		カットオフ値					
		新法 (LC-MS/MS) μg/mL		現行法 (GC-MS) ng/mL		現行法・換算値 μg/mL	
		全血	尿	全血	尿	全血	尿
1	スミチオン(MEP)	0.01	0.01	1	1	0.001	0.001
2	マラチオン	0.01	0.01	10	10	0.010	0.010
3	CYAP	0.01	0.01	1	1	0.001	0.001
4	エチルチオメトン	0.01	0.01	1	1	0.001	0.001
5	EPN	0.01	0.01	1	10	0.001	0.010
6	ダイアジノン	0.01	0.01	1	1	0.001	0.001
7	MPP	0.01	0.01	10	1	0.010	0.001
8	メチダチオン	0.01	0.01	10	10	0.010	0.010
9	イソキサチオン	0.01	0.01	※	※	※	※
10	ピリミホスメチル	0.01	0.01	※	※	※	※
11	DDVP	0.01	0.01	※	※	※	※
12	トリクロルフォン	0.01	0.01	※	※	※	※
13	メトリブジン	0.01	0.01	50	10	0.050	0.010
14	シマジン(CAT)	0.01	0.01	30	20	0.030	0.020
15	フェノプカルブ	0.01	0.01	10	10	0.010	0.010
16	カルバリル	0.01	0.01	※	※	※	※
17	メソミル	0.20	0.30	※	※	※	※
18	アラクロール	0.01	0.01	10	10	0.010	0.010
19	プロパニル	0.01	0.01	10	1	0.010	0.001
20	フェンバレレート	0.01	0.01	30	10	0.030	0.010
21	シベルメトリン	0.01	0.01	260	70	0.260	0.070
22	ベルメトリン	0.01	0.01	30	10	0.030	0.010

※現行法では定性報告です。

IgE(特異的)

IgE(特異的)の基準値(0.34 UA/mL 以下)を測定試薬の添付文書に準拠した表記(0.35 UA/mL 未満)に変更致します。

対象項目一覧

[シングルアレルゲン]項目一覧

項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名
室内塵		922	ブタクサモドキ	1014	イソシアネートTDI	1028	セロリ
1011	ハウスダスト1	927	フランスギク	1017	エチレンオキシド	1040	ソバ
1012	ハウスダスト2	929	ヘラオオバコ	1013	オオバコ種子	1043	大豆
	ダニ	926	ヨモギ	1064	綿	1116	タケノコ
1005	アシトコナダニ	真菌/細菌		1132	ホルマリン	1117	タコ
1004	ケナガコナダニ	1023	アスペルギルス	1018	無水フタル酸	1062	玉ネギ
1002	コナヒョウヒダニ(ダニ2)	1026	アルテルナリア	1128	綿	1033	タラ
1006	サヤアシニクダニ	1025	カンジダ	1126	ラテックス	2418	タラコ
1001	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)	1022	クラドスポリウム	3684	Hev b 6.02(ラテックス)	1074	チェダーチーズ
樹木花粉		1140	トリコフィン	食品		1038	トウモロコシ
1066	アカシア(属)	1127	ピテリスポリウム	1047	アーモンド	1050	トマト
959	オリーブ	1021	ベニシリウム	2431	アサリ	1071	鶏肉
951	カエデ(属)	1027	ヘルミトスポリウム	1110	アジ	1051	ニンジン
953	カバ(シラカンバ属)	3346	マラセチア(属)	946	アボカド	1061	ニンニク
960	クルミ(カフ)	1024	ムコール	1112	アワ	919	麦芽
1136	クワ(属)	1473	エンテロトキシンA	1118	イカ	1045	ハシバミ
957	コナラ(属)	1474	エンテロトキシンB	2417	イクラ	1029	パセリ
963	スギ	動物		1060	イチゴ	1092	バナナ
958	ニレ(属)	986	アヒル(羽毛)	1119	イワシ	1042	ビーナッツ
952	ハンノキ(属)	979	家兎(上皮)	1044	インゲン	1063	ビール酵母
949	ヒノキ	975	イヌ(フケ)	1049	エビ	1113	ヒエ
956	ビャクシン(属)	974	ウシ(フケ)	1041	エンドウ	1073	羊肉
955	ブナ(属)	973	ウマ(フケ)	1037	オートムギ	1058	豚肉
966	マツ(属)	985	ガチョウ(羽毛)	1036	オオムギ	1046	ブラジルナッツ
962	ヤナギ(属)	990	セキセイインコ(羽毛)	1078	オボムコイド	1124	ホウレンソウ
イネ科植物花粉		988	セキセイインコのふん	1052	オレンジ	2433	ホタテ
907	アシ	987	ニワトリ(羽毛)	1121	カカオ	1054	マグロ
906	オオアワガエリ	971	ネコ(フケ)	2432	カキ(貝)	1020	マスタード
917	オオスズメノテツボウ	980	ハムスター(上皮)	3347	カシューナッツ	945	マンゴ
903	カモガヤ	978	ヒツジ(上皮)	1097	カゼイン	1057	ムラサキイガイ
902	ギョウギシバ	995	ブタ(上皮)	1048	カニ	1072	メロン
909	コスカグサ(属)	997	マウス	1123	カボチャ	1096	モールドチーズ
916	コムギ(属)	976	モルモット(上皮)	1125	カレイ	1099	モモ
913	スズメノヒエ(属)	1019	ヤギ(上皮)	1100	キウイ	2435	ヤマイモ
912	セイバンモロコシ	996	ラット	1114	キビ	1098	洋ナシ
908	ナガハグサ	昆虫		1065	牛肉	1035	ライムギ
901	ハルガヤ	983	アシナガバチ	1032	牛乳	1069	卵黄
904	ヒロハウシノケグサ	1010	ガ	1077	グルテン	1031	卵白
905	ホソムギ	984	ゴキブリ	1129	クルミ(ミ)	1067	リンゴ
雑草花粉		982	スズメバチ	1094	グレープフルーツ	1030	ロブスター
932	アキノキリンソウ	981	ミツバチ	1056	ココナッツ	3685	Gly m4(大豆)
935	イラクサ(属)	1070	ヤブカ(属)	1055	ゴマ	1075	α-ラクトアルブミン
923	オオブタクサ	1008	ユスリカ(成虫)	1034	コムギ	1076	β-ラクトグロブリン
1009	カナムグラ	寄生虫		1039	米	3348	ω-5 グリアジン
930	シロザ	1007	アニサキス	1059	サケ	薬物	
928	タンポポ(属)	991	回虫	1115	サツマイモ	1131	ゼラチン
925	ニガヨモギ	職業性アレルゲン		1111	サバ	1122	ヒトインスリン
938	ヒメスイバ	1016	イソシアネートHDI	1053	ジャガイモ		
921	ブタクサ	1015	イソシアネートMDI	2436	スイカ		

[マルチアレルゲン]項目一覧

項目コード	項目名	項目コード	項目名	項目コード	項目名
1101	イネ科・マルチ	1103	食物・マルチ	1105	動物上皮・マルチ
1102	雑草・マルチ	1104	穀物・マルチ	1106	カビ・マルチ

新判定基準

【特異的IgE】

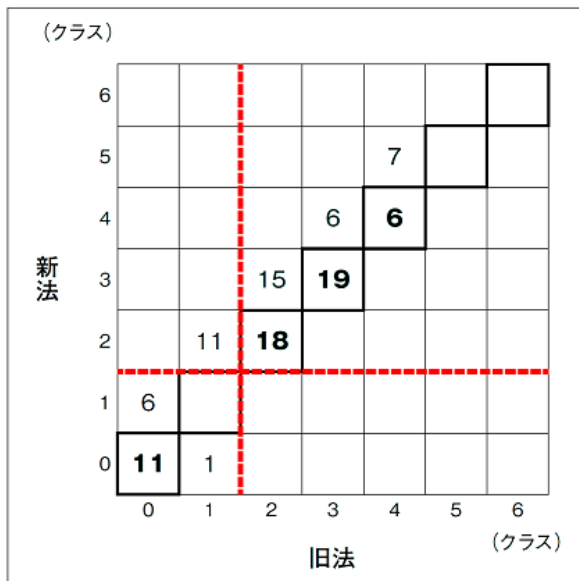
IgE抗体濃度 (U _A /mL)	クラス	判定	
0.35未満	0	陰性	—
0.35～0.69	1	疑陽性	±
0.70～3.49	2	陽性	+
3.50～17.49	3		++
17.50～49.99	4		+++
50.00～99.99	5		
100以上	6		

特異的 IgE ヒノキ

特異的IgE ヒノキの検査試薬を同一メーカーが販売する臨床的感度の高い改良試薬に変更致します。改良試薬はヒノキ花粉の抽出工程の改良により、ヒノキ特異的IgEとの反応性が向上しています。

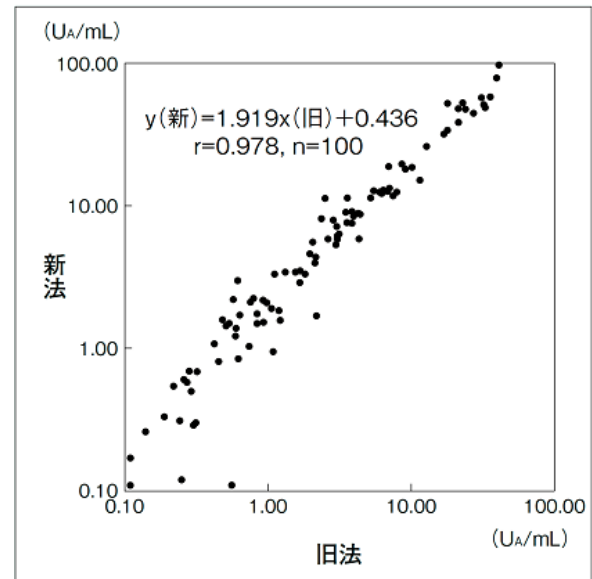
新旧二法の相関

[判定一致率]



陽性一致率：100% 71/71
 陰性一致率：65% 11/17
 判定一致率：54% 54/100

[測定値]



(LSI メディエンス検討データ)

□参考文献

米倉修二, 他: アレルギー67: 67-71, 2018.